旭川市学校施設長寿命化計画【概要版】

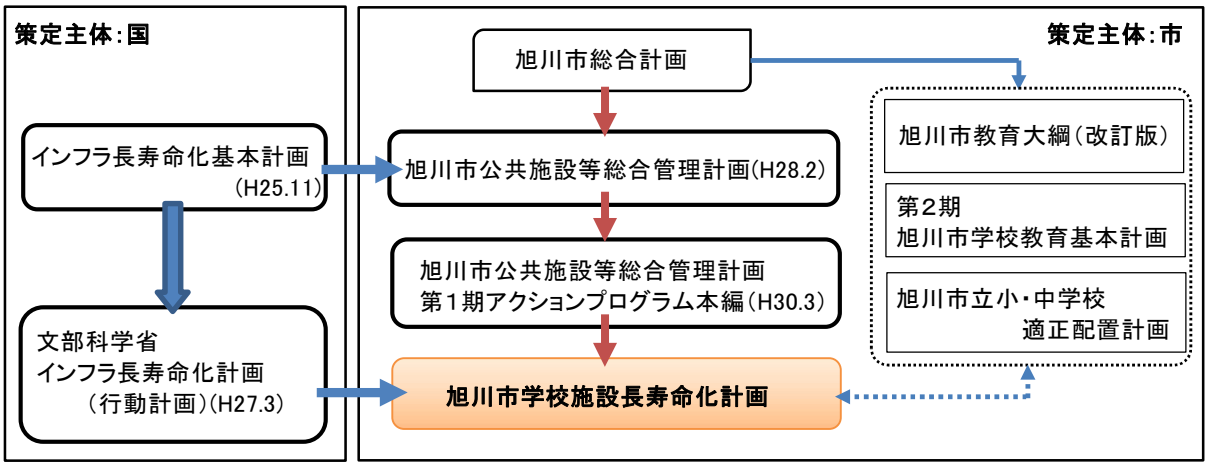
1　学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

計画の背景・目的

- 本市の学校施設は，多くが児童生徒が急増した昭和６０年代以前に建設されたため，老朽化が進んでいます。
- 施設環境については，教育環境の質的向上に加え，防災機能強化なども求められています。
- 中長期的な視点を持って，施設の長寿命化及び維持管理の適正化などを推進するとともに，施設整備等に係る財政負担の軽減，平準化を図り，学校施設に求められる機能・性能を確保することを目的として，本計画を策定します。

計画の位置付け

- 国の「インフラ長寿命化基本計画」に基づき，文部科学省では，「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定するとともに，各地方公共団体に対し，学校施設の長寿命化計画を策定するよう要請しています。
- 本市においても，施設保有量の最適化や施設の適切な維持管理，コストの抑制と財源確保などの基本方針を取りまとめた，「旭川市公共施設等総合管理計画（以下「管理計画」という。）」を策定しており，この方向性に基づき，施設ごとの個別計画を策定することとしています。
- 本市では，「管理計画」の基本方針等に基づき，学校施設に係る取組内容を示した個別計画として，本計画を策定します。



計画の期間

- 令和２年度（２０２０年度）から令和２１年度（２０３９年度）までの２０年間を計画期間とします。

２　学校施設の目指すべき姿

学校施設整備の基本的な考え方

- 本市関連計画等との整合性を図りつつ，次の事項を重点的に配慮し，学校施設整備を進めていきます。

ア　安全・安心で充実した施設環境の整備
イ　学び方の変化に対応した施設整備
ウ　地域に密着した施設整備

３　学校施設の実態

児童生徒数の推移及び将来推計

- 令和２年度の児童生徒数は，２１，９８８人と昭和５７年のピーク時から５７％の減少となっており，本市の総人口も減少傾向にあることから，児童生徒数の減少は今後も続くことが見込まれます。

学校施設の保有状況

- 学校施設全体の約７０％が建築後３０年を超えており，既に大規模修繕や設備機器等の更新時期を迎えています。
- 建築後２０年以上３０年未満の学校施設も全体の約１５％となっており，今後，改修等が必要な施設が更に増加していきます。

今後の維持・更新コスト（従来型）

- 建築後５０年程度での建替えを今後も続けた場合（従来型）のコスト試算を行った結果，今後４０年間のコストは約２，３６０億円となる見込みです。
- 令和２年度からの２０年間は，建替え時期を迎える施設が集中するため，更新コストの縮減や予算の平準化を行う対策が必要となります。

４　学校施設整備の基本的な方針等

施設整備の方針

- 多額の費用がかかる建替えを中心とした整備を継続していくことが難しいため,「施設の適切な維持管理」を推進し，施設の長寿命化を行うことにより，トータルコストの縮減，財政負担の平準化を図ります。
- 学校施設の劣化状況を適切に把握し，耐用年数にかかわらず，部材等の損傷が軽微な段階から計画的に改修を行い，不具合を未然に防止する「予防保全」を行うものとします。

目標使用年数，改修周期の設定

- 学校施設の目標使用年数を８０年とします。
- 適切な改修周期を設定し，予防保全の取組を進めることで，学校施設を目標使用年数まで使用することとします。

目標使用年数	大規模改修の周期	長寿命化改修の周期
８０年	２０年	４０年

※大規模改修：経年により発生する損傷，機能低下に対する復旧を行う工事
※長寿命化改修：長寿命化を行うために，物理的な不具合を直し耐久性を高めることに加え，機能や性能を求められる水準まで引き上げる工事

長寿命化のコストの見通し

- 学校施設を建築後８０年程度使用していく場合のコストを試算したところ，今後４０年間で約２，０９９億円が必要となる見込みです。
- 従来型の施設整備と比較すると，今後４０年間で２６１億円圧縮できると試算されましたが，施設整備に係る費用は増大していく見通しであるため,「管理計画」の基本方針に基づいた取組を進めていくことが必要です。

改修等の整備水準

- 長寿命化に当たっては，安全性の確保や機能保持のため，計画的に更新する必要がある部材等について，施設の劣化状況を踏まえながら，優先的に改修を行います。
- 教育環境の質的向上などの改善を併せて実施するなど，合理的な整備を検討します。

５　計画の実施・運用方針

維持管理の手法，情報の管理等

- 施設の状態や改修，交換履歴等の情報，法定点検等の結果を「劣化状況調査票」を用いて蓄積し，情報を適宜更新し，最新の情報を管理するよう運用を行います。
- 施設整備や改修に当たっては，劣化状況調査票からの部材等の劣化の状況を適切に把握し，トイレや暖房など設備機器の個別改修等の時期も考慮した上で，効率的な施設整備となるよう検討していきます。

フォローアップ

- 効率的かつ効果的な施設整備を進めていくためには，ＰＤＣＡサイクル〔Plan（計画の策定）→Do（計画に基づく取組の実施）→Check（効果の検証・評価）→Action（次期計画への反映）〕を確立することが重要です。
- 定期的に計画の進捗状況等について評価・検証するとともに，教育環境や社会情勢の変化，児童生徒数の推移，施設の老朽化に関する点検・評価の結果等を踏まえ，適宜，本計画を見直します。